

川崎陸送／ＱＣ大会

流通加工で生産性向上

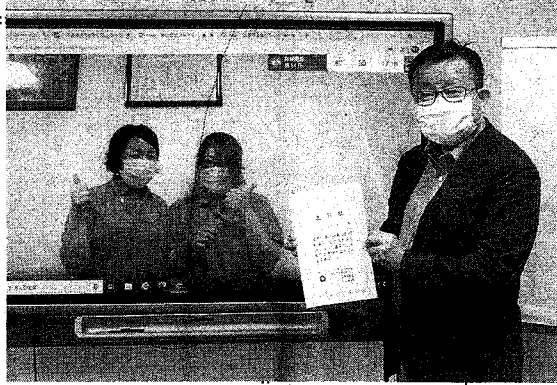
川崎陸送(樋口恵一社長、東京都港区)は20日、ＱＣサークル(小集団活動)代表発表大会を開催した。新型コロナウイルスへの感染防止のため、予選を含めて初めてリモートで開催。大会では、予選を勝ち抜いた精鋭10サークルがそれぞれの課題に応じた業務改善の取り組みを発表し、流通加工における作業生産性の向上に取り組んだ坂戸流通センター(埼玉県坂戸市)の「チームきのたけ」が1位の優秀賞に輝いた。

各サークルは、ピッキングミス発生率の削減や、配先企業を巻き込んだ積み下ろし作業時間の削減、税関への申告書作成ミス削減による通関士の業務負担軽減など、課題解決に向けた多様なテーマを設定。予選を含めた大会では、テレビ会議システムを用いて発表や表彰式などを行った。

チームきのたけは、流通加工における単体作業について作業スピードの迅速化と平準化を目指した取り組み

を発表。1回当たりの作業時間や1日当たりの作業量について目標を設定し、意識付けを図ったほか、1時間ごとに体操を取り入れて長時間作業

優秀賞に輝いたチームきのたけのメンバーと樋口社長



川崎陸送では、テレビ会議が可能な環境を、20年以上の長きにわたって整えている。これにより、新型コロナウイルス感染拡大で多くの企業がリモート化の取り組みに苦慮する中、川崎陸送では長年の経験から大きな混乱無く対応できたという。また、20日の

新型コロナ、混乱無く対応

テレビ会議システム 20年の経験生かし

ＱＣ(小集団活動)サークル代表発表大会も、テレビ会議を活用して開催した。同社がテレビ会議のシステムを取り入れたのは20年以上前にさかのぼる。配車業務に関する連絡などで、「電話ではなく顔と顔を合わせながら意思疎通を図る」ことを重視し、1995年ごろに導入の構想を掲げ、1999年ごろから全拠点への導入を進めた。当時はテレビ会議システムを常に起動させ、営業所間でのコミュニケーションを密

に取っ組み合った。また、パソコンについても同時期から1人1台使えるように環境を整備している。

ＱＣ大会の開会式で、樋口恵一社長は「テレビ会議に慣れていたことで、新型コロナウイルス感染拡大に伴う業務のリモート化に少ない苦労で対応できたことは良かった。アンケートを取ってみても、リモート化に『抵抗がある』という回答が無いのは当社の強みと『言えるだろう』と話した。

(井内亨)

業による疲労蓄積の予防などを試みた。各メンバーの作業時間向上と、これに伴うコスト削減効果といった成果が評価され、2大会ぶりの優秀賞に選ばれた。

また、優良賞(2位)に西多摩営業所(東京都瑞穂町)の「みずほPGTO」、努力賞(3位)には葛西流通センター(江戸川区)の「葛西の達人」が受賞。個人が競う優秀提案発表では、スーパー向けの倉庫作業における人員の適正配置について提案した関東営業所(埼玉県坂戸市)の藤田

和枝氏が最優秀賞に輝いた。

(井内亨)